

「自己埋め込み障害」

- (1) 悩みを抱える 10 代の若者の多くが、自分を不安にする考えや感情に対処するための手段として、くぎやクリップ、岩のかけらやガラス、それにクレヨンさえも自分の体に埋め込んでいるとアメリカの研究者が語った。
- (2) そういうケースには、たくさんの物を自分の腕や足や足首、それに首に埋め込むケースが含まれる。
- (3) これは一般的に「自己埋め込み障害」と呼ばれるもので、自傷行為を上回っている。
- (4) 「自己埋め込み障害」は 2005 年から見られるようになったもので、それ以前には全く見られなかったと、誤って[事故で]皮膚に埋め込まれた物を取り除く技術を開発した外科医は話した。
- (5) (一方)自傷行為には、皮膚を切ったり焼いたりする、髪をかきむしる、骨を折る、物を飲み込む、といった数多くの行為が含まれる。
- (6) 自傷行為は秘密にされていることが多いが、アメリカとカナダの高校生の 13%から 24%が少なくとも一度は故意に自分を傷つけた経験をもっている。